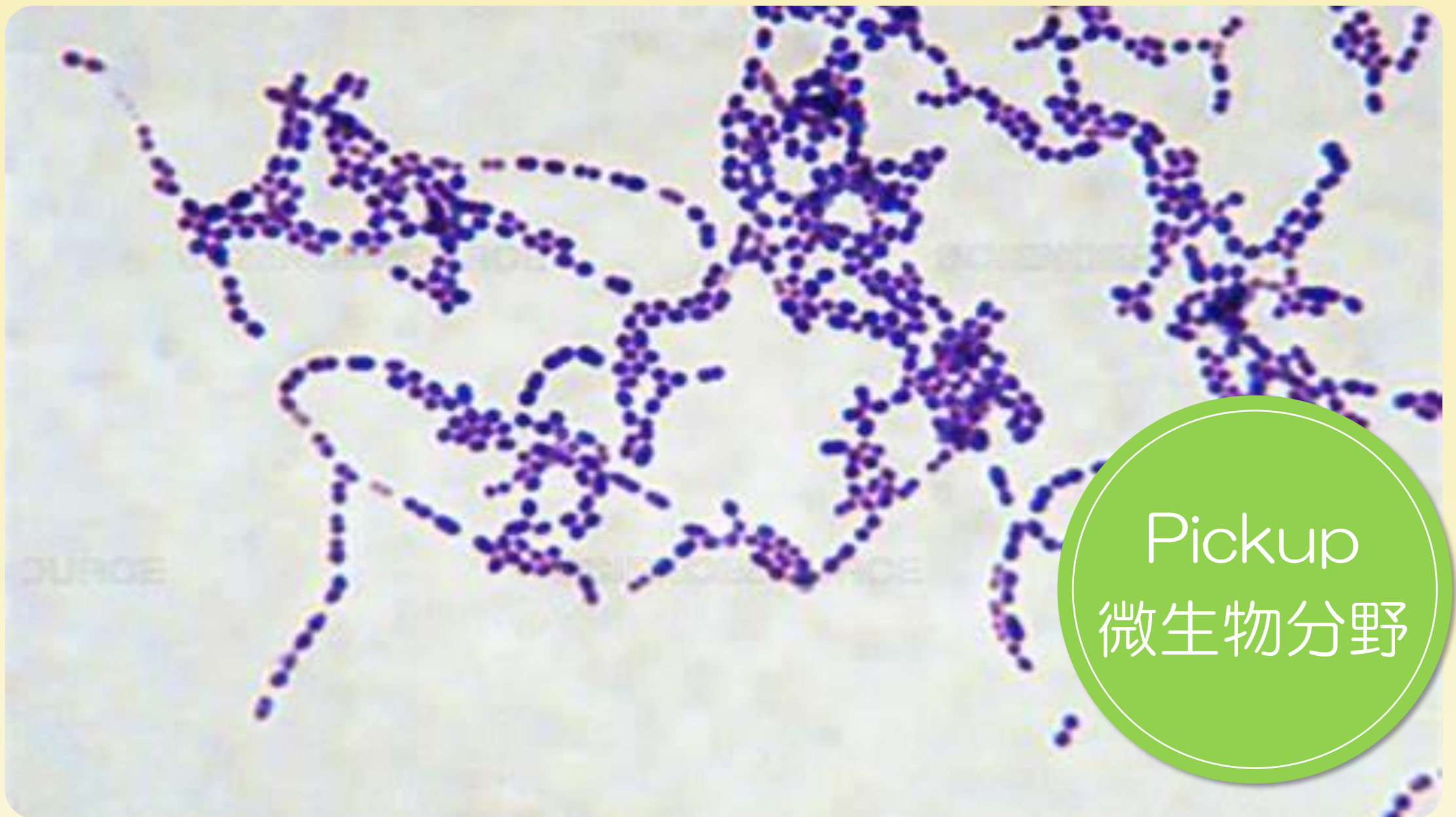
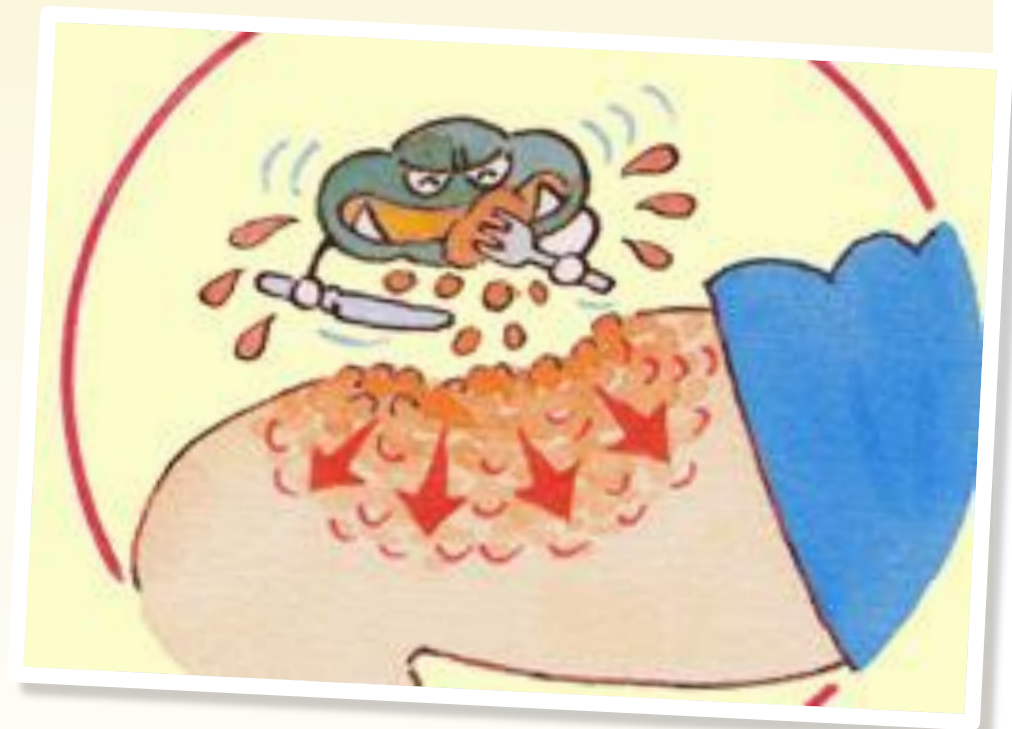


国際規格ISO15189を取得した衛生検査所です



人食いバクテリアについて

人食いバクテリア(劇症型溶血性レンサ球菌感染症)とは主にA群溶血性レンサ球菌(*Streptococcus pyogenes* 以下*S. pyogenes*)が原因菌として引き起こされる感染症です。初発症状は咽頭痛や発熱、吐き気、嘔吐、下痢、全身倦怠感、低血圧、筋痛などが挙げられますが、明らかな初期症状がない場合もあります。後発症状としては組織壊死、循環不全、呼吸不全、血液凝固異常、肝不全や腎不全など発症から数十時間で多臓器不全を来します。また、致死率はおよそ30%です。そのため、急速に進行しかつ死亡率の高い感染症といえます。



疫学

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は1987年に米国で最初に報告され、その後、ヨーロッパやアジアからも報告されています。日本における最初の典型的な症例は1992年に報告されており、毎年200-500人ほどの患者が確認されていましたが、ここ近年では増加傾向にあります(国立感染症研究所調べ)。

A群溶血性レンサ球菌の基本情報

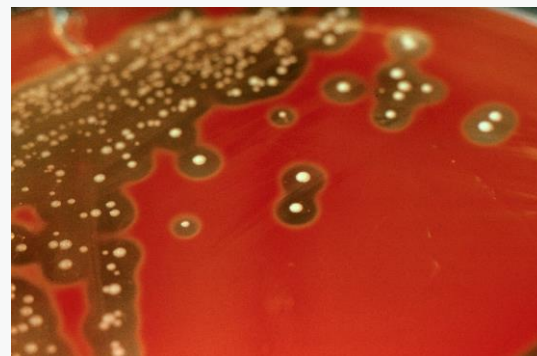
では、具体的に A群溶血性レンサ球菌にはどのような特徴があるのでしょうか。ここでは一般的な症状、培養やキットを用いた検査法、感染者数の変化についての説明します。

扁桃炎との関係



発熱や倦怠感を伴う扁桃炎の原因菌として、しばしば溶連菌感染症を耳にするとお考えですが、実は人食いバクテリアと同じで *S. pyogenes* が原因菌です。溶連菌感染症の一部がまれに劇症化することで多臓器不全や組織壊死が生じます。劇症化の明確なメカニズムは未だに不明です。

*S. pyogenes*の検査法



【培養】
ヒツジ血液寒天培地に検体を塗抹し35~37℃で一晩培養すると、上の画像のように菌集落(白色)周辺に透明体を形成するのが特徴です(β 溶血)。この特徴的な菌集落を採取して、キットを使用したりすることで菌種を同定していきます。またこの菌に対してどんな薬が有効かを調べることも我々の使命です。

【検査キット】



当施設では、ヒツジ血液寒天培地での培養で溶連菌を疑う場合、上の画像のように検査キットを用いて検査をしています。A~Gまであるのは *S. pyogenes* (A群) 以外にもレンサ球菌が存在するため、その鑑別をするために使用しています。菌が該当の試薬に対して凝集を生じることで鑑別ができます。上の画像ではAのみ凝集を生じているため、*S. pyogenes* の存在が示唆されます。

感染者数の推移



昨年は過去最多を更新しました。特に東京や神奈川など関東圏での患者数増加が顕著です。

Key Point

人食いバクテリアは、感染症法において5類に分類される感染症です。感染経路は飛沫感染だけでなく接触感染があり、小さな傷口からも侵入する可能性があります。そのため、マスクの着用や手指消毒に加えて、傷口を清潔に保つといった予防対策が有効となります。基礎疾患の有無に関わらず、人食いバクテリアは急速に進行することがあるため、異変を感じたら直ぐに病院へ受診するようにしましょう。

<お問い合わせ先>

検査に関するお問い合わせ、ご要望は下記連絡先にご連絡ください。

〒471-0821 愛知県豊田市平和町1-62

TEL : 0565-25-3165 (代)

FAX : 0565-25-3166 (代)

次回のテーマ

PSA

過去のらぼニュースは下記からご覧いただけます

会社ホームページ <http://www.goodld.com>

